～公民館を核とした持続可能な地域づくり推進事業～
公民館ふるさと教育推進事業　取組事例

テーマ

ふるさと発見　隠岐の島

事業実施地区（中学校区名）	都万中学校区
事業実施公民館等名 （中学校区内にある全ての公民館等）	都万公民館

テーマの背景

本校区の子供たちは、自然豊かな環境で育ちながらも、ゲームやスマートフォンなどを使って家で過ごすことが多くなり、自然の中で活動する機会が減っている。特に海のそばで暮らしているのに海での体験が不足している実態がある。そこで、今回、地域の方々との交流を通して、海での活動を中心とした生活体験ができる場を設けることで、子供たちや地域の方々が改めてふるさとの良さを味わうことで、ふるさとを見直す機会となり、そして将来を担う“隠岐びと”を育む契機にしたいと考えている。

実際の取組

①ふるさとの魅力や価値に気づき、理解を深める学びの場を設定

事業名：『マリンスポーツ体験』

＜取組の概要＞

目的：海に親しむ機会が減っている子ども達に、マリンスポーツを通じて、ふるさとの自然への理解を深めるとともに、キャンプで自立心、協調性を養う。
対象：都万小学校５，６年生、ジオパーク推進協議会
期日：平成 29 年８月２日（火）～３日（水）
場所：塩の浜海岸周辺(拠点：海洋スポーツセンター)
内容：海に親しむことでふるさとの自然などへの関心を高める。
①キャンプ設営　②竹クラフト　③海遊び（海水浴）　④ヨット（２人乗り）体験
⑤シーカヤック体験　⑥海岸環境学習　※天候悪化で１日短縮で終了

＜成果と課題＞
成果：本プログラムの中心であった「マリンスポーツ」などが天候悪化で中止となり「海に親しむ」が中途半端となったのは残念であるが、子供たちが関心を持てたことは何よりの成果であった。
課題：「海に親しむ」ことには、楽しいことだけではなく、危険であることも含めて学ぶ機会が必要だった。また、気象状況に対応できるプログラムが必要だった。

②ふるさとの魅力に気づき、理解を深める学びの場を設定

事業名：『ふるさと体験活動』

＜取組の概要＞

目的：さまざまな体験等や中学生と地域住民との交流を通して、ふるさとの自然や生活などへの理解を深める。
対象：都万中学校１年生、地域住民（那久地区）
期日：平成 29 年 7 月 27 日（水）～29 日（金）
場所：那久地区（拠点：旧那久小学校）
内容：地域住民との交流を交えながら、各種体験活動を行った。
①ゲートボール事前学習及び練習会　②ゲートボール交流会　②BBQ 交流会
③サザエ刺し網漁体験　④素潜り漁体験　⑤食材調理体験　⑥シーカヤック体験
⑦ジオパーク学習

＜成果と課題＞
成果：子ども達は、地域の方々の協力で意義深い体験活動が成り立っていることを感じることができた。ふるさとの自然だけでなく、人と人との結びつきなどに触れることができ、学校生活とは違った経験ができた。一方、地域住民にとっても、子供との交流や体験活動を通して、ふるさとを見直す良い機会となった。
課題：本事業での体験メニューは与えた内容が多かった。子供たちに主体性を持たせつつ地域の方々と一緒になってプログラムを作り上げるような事業の進め方が必要だと考える。

まとめ

テーマに迫るためのポイント
初めての取組であり小学生と中学生と分けて行った。小学生は主に海に親しむことを、中学生は住民との交流を交えながらふるさとを学ぶ体験を計画した。本事業は学校、公民館が主体でプログラムを構成した。これに地域住民が協力できることを加えて行ったが、計画の段階からもっと住民の意見を入れながら、地域・学校・公民館・関係機関が連携しやすい体制づくりが必要と考える。
今後の展望
２回の体験活動の基本を「海に親しむ」と考えて構成したが、気象条件に大きく影響されるので、リスク管理は事前に十分検討しておきたい。プログラムについても、数多くのメニューを組み込むより、じっくり取り組む内容が望ましいと思われる。今後は、子ども達がふるさとをより実感できることを優先し、合わせて地域との連携を密にして、子どもと大人も共にふるさと隠岐の良さを発見できるよう、継続的に取り組んでいく考えである。

村上静夫